

リレー随想

植木町のSさんから、八月二十五日にヤワラちゃんこと田村亮子選手が、水前寺の武道館で強化合宿をするので、「良かった



田村亮子選手

らおいで、一緒に写真を撮ってあげる」と小学生の息子に電話があつていたみたいだった。平成九年のことである。Sさんは、田村選手のおばさんにあたる人で、彼女の試合には、ほとんど応援に行っている間柄らしい。「この日、武道館に行ける？」息子が言うので「何時から？」と聞くと、昼の二時くらいからヤワラちゃんは武道館にいると答えた。

「その時間帯は、世のお父さんはみんな、一生懸命仕事しているんだよ」。そう言うのと「忙しいならいい」と息子は言ったが、当時私は事務所を開いたばかりで、急いでしなければならぬような用件もなく、「どうせ大した仕事もないんだろ」と息子からは、足元を見透

ヤワラちゃん見聞記



土地家屋調査士

田口 一法さん

かされているようだった。「ヤワラちゃんにも会ってみたいし、行ってみるか」。私がそう言うと、息子は喜んで色紙を三枚用意した。家庭教師の森田さん、友達伊藤君と自分の分だと言う。「他にやる人はいないから？」私が聞くと「そんなにいっぱい頼めないよ」と、わくわくした様子だった。当日はカメラを持って、二時より少し前に武道館に着いた

が、館の雰囲気は何となくのんびりしていて、「本当に今日ヤワラちゃん来るのか？」と息子に確かめた。「Sのおばちゃん」が、今日だと言っていた。「と、息子は間違いないと言ったが、何となく不安な様子だった。Sさんからは昨日電話があつて、今日は来られないとのこと。職員の人が見えたので聞いてみると、四時からと教えてくれた。一緒に来た娘と三人、館内をぶらぶらして剣道場に入り、宮本武蔵や丸目蔵人の名札を眺めながら、しばらく時間を過ごした。田村選手をはじめ、日本の主力級の選手が数人中に入ると、取材の人何人も来ていて、館内が騒々しくなった。通路よりは少し下がったところから、柔道着姿の田村選手を見たが、彼女は大勢集まった私たちを前に「こんにちは」と、目が合った一人一人に自分の方から声をかけて、さっさと中に入っていた。

これから合宿練習に向かう彼女は硬い顔の表情で、テレビでよく見る、あの人なつっこい顔ではなかったが、それでも、彼女を囲んだ大勢の人に対する気配りみたいなものが感じられた。とてもさわやかで、素晴らしい女性だと、私はすぐに彼女のファンになった。誰かがサインを頼んでいたが、「後でします」とも、こたえていた。

(熊本市花園、48歳)